４７．≪化政文化と、四谷怪談≫

徳川家斉(いえなり：生没年：1773~1841　年)は、将軍在位期間が５０年間と半世紀(在位期間：1787~1837　年)に及びます。子供を５３人もつくった、和製ハーレムの王です（注１）。行政的には無為無策。

そんな時代に、江戸に化政文化が開花します。それを支えたのは、庶民たちでした。出版業界が誕生し、作家を生業とできる時代が出現したのです。（注２）

弥次さん・喜多さんが箱根へ旅行した「膝栗毛」がまさかの大ヒット。そこから連載が続き、とうとう京都まで旅行して「東海道中膝栗毛」（注３）となりました。観光旅行ブーム（お伊勢参りなど）もあり、地域の特色を絡めた軽妙洒脱な会話と狂歌が大うけでした。

また、鶴屋南北（生没年：1755 －1829 年）が登場し、江戸の歌舞伎は全盛を迎えます。その代表作「東海道四谷怪談」（注４）は、１８２５年（文政８）が初演。神田川流域で起きた実際の事件を脚色して繰り広げられる猟奇サスペンス活劇は、視聴覚効果抜群の出来栄えでした。

さて、伊能忠敬（ただたか、生没年：1745 －1818 年）が「大日本沿岸輿（よち）地全図」を完成させたのは、１８２１年（文政４）のこと。西洋の知識（蘭学）も幅広い知識層に浸透した時代でもあります。
その一方で、国際情勢はいよいよ慌ただしさを増し（注５）、国内は天変地異と疫病が続発する激動の時代に突入していきました。

注１：東京大学の赤門は、子供の溶姫が前田家に嫁いだときに造られたものです。１８２７年（文政１０）完成。
注２：文化文政時代に活躍した主要な文化人
山東　京伝（生没年：1761 －1816 年）　浮世絵
一返舎一九（生没年：1765 －1831 年）　滑稽本　代表作「東海道中膝栗毛」
滝沢　馬琴（生没年：1767 －1848 年）　小説　代表作「南総里見八犬伝」
（参考：鈴木　牧之（生没年：1770 －1842 年）　随筆　代表作「北越雪譜」）
式亭　三馬（生没年：1776 －1822 年）　滑稽本　代表作「浮世風呂」

注３：作者は、一返舎一九（生没年。江戸八丁堀の長屋に住んでいた弥次郎兵衛（やじろべい）と喜多八（きたはち）の２人が繰り広げる珍道中記。「膝栗毛」は、１８０２年（享和２）発刊。それから１１年にわたりシリーズ化され、京都までの旅行記となります。その後も人気はやまず、金比羅参り、宮島参り、善光寺参りも発刊されました。

注４：あらすじは、【お岩は、伊右衛門の妻。伊右衛門は、自分の悪事を知られたお岩の父を殺害。そうとは知らず、一緒に仇を取ろうと騙される。お岩の産後、体調が悪く、これを案じて、隣の家から薬が届けられる。しかしこれが、顔が崩れる毒薬でした。実は、隣のじいさんが、伊右衛門を孫娘の夫にするために、お岩との離縁を狙ったのでした。毒薬を飲んだお岩が、伊右衛門や隣の家への復讐を果たす。】というもの。

　この話は、元禄時代の話がもとになっています。その話とは、【お岩のモデルは、四谷に住んでいた下級武士田宮又左衛門の娘で、大坂出身の浪人伊右衛門を夫に迎えます。しかし伊右衛門の上司だった伊東喜兵衛が、妊娠した妾を伊右衛門に押し付けるため、お岩を離縁させました。あとから事実を知ったお岩は狂乱したあげく、行方知れずになった。】というもの

注５：オランダは、インドネシアを拠点に長崎と樺太に貿易拠点港を持ち、東アジアの制海権を握っていました。しかしフランス革命以降、本国がフランスに征服された結果、東アジアの制海権が揺ぎます。その隙を狙って、ロシアが北海道に南下、独立を果たしたアメリカが進出、イギリスやフランスも日本と接触してくるのです。

写真は、①四谷怪談の一場面を描いた浮世絵（歌川国貞古今大当戸板かへし、背筋がぞっとする妖怪・幽霊の浮世絵ギャラリーＨＰより）②田宮お岩稲荷神社の位置と場所（細見撮影）、③伊能忠敬の銅像と大日本輿地全図（銅像は、富岡八幡宮にあります。細見撮影）

徳川家斉（いえなり：生没年：1773~1841 年）は、将軍在位期間が５０年間と半世紀（1787~1837 年）に及びます。政権初期には、松平定信が“寛政の改革”を断行するも、ロシアが北海道に出没して交易を求めるなど、新しい激動の時代が忍び寄ってきます。

①

曙橋
市ケ谷
防衛省
319
四谷三丁目
四ッ谷
麹町
418
上智大
慶應義塾
大医学部
ホテルニューオータニ
信濃町
414
414
明治神宮野球場
Google
一丁目
通称 お岩さま

②